

平成27年度施策評価調書

整理番号	12
評価担当課	建設水道部建築課
職・氏名	

1 施策の名称等

施策名(基本事業)	公営住宅の改善整備		
総合計画の位置づけ	基本目標	3	自然と環境にやさしく快適で安全なまちづくり
	主要施策	8	住宅の整備

2 施策の現状分析と意図

施策の対象、意図(誰、何をどのようにしたいのか)	市の公営住宅の多くは昭和40年から50年代に建設された建物であり、このうち、今後もストックが可能な住棟においては、改善や改修を行い建物を延命させることで既存ストックを有効活用できる。建替えと比較してもイニシャルコストが抑えられ、居住環境の整った住戸を供給することが出来る。
施策の現状(現状どのような手段を講じているか)	平成22年度に策定した公営住宅等長寿命化計画に基づき、既存ストックとした団地の改善事業を進めており、現在はノースタウンなよろ団地と風舞団地の住棟の外壁や屋上防水の改善、旧西町団地においてはとりにこわしを進めている。
施策の課題	今後も維持管理する既存団地においても、老朽化が進行するため多様化した市民のニーズに対応できなくなる部分もある。このため、計画搭載以外の公営住宅においても計画的修繕を実施する必要がある。

3 成果指標の達成状況

成果指標	指標の説明	区分	H24	H25	H26	目標年度(年度)
既設公営住宅改善事業	改善をする公営住宅の団地数	目標値	2	2	3	
		実績値	2	2	3	
		進捗率	100%	100%	100%	
		目標値				
		実績値				
		進捗率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
		目標値				
		実績値				
		進捗率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
		目標値				
		実績値				
		進捗率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	

4 施策の達成状況

施策の達成度	理由・問題点等	評価基準
A	団地入居者の円滑な事業協力もあり、改善は計画どおり遂行し順調に推移している。	A: 計画目標に向けて順調に推移 B: 計画目標に向かって概ね順調 C: 計画目標に向けて進捗はやや遅れている D: 計画目標に向け進捗は遅れている

5 今後の方向性

引き続き、団地入居者の理解を得ながら改善事業を進めていく。

6 ワーキンググループの意見等

1次評価のとおり

7 外部評価の意見等

1次評価のとおり

8 2次評価の意見等

1次評価のとおり

9 施策を構成する事務事業

(1)H26年度実施事業

事業 番号	事務事業名	事業の概要	H26決算額	1次評価						外部 評価	2次 評価
				妥当性	有効性	効率性	公平性	達成度	評価		
1	既設公営住宅改善 事業	既存住宅の共用部改善等 (屋上・外壁)、不良住宅の 除却	108,107	a	a	a	a	a	A		

(2)その他の取組(既に終了した事業や予算を伴わない取組等(1)以外の取組を記入してください。)

--

平成27年度事務事業評価調書

整理番号	12	枝番	1
評価担当課・係・職名・氏名	建築課建築係		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	既設公営住宅改善事業			
総合計画の位置づけ	有 無	基本目標	3	自然と環境にやさしく快適で安全なまちづくり
		主要施策	8	住宅の整備
		基本事業	2	公営住宅の改善整備
		実施計画事業	1	既設公営住宅改善事業

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	既設公営住宅の安全安心な居住環境の提供			
対象(何を又は誰を)	公営住宅に入居する市民及び入居可能な市民			
手段＝活動(仕事) (どのような方法で)	既設公営住宅の適正な管理を行うために、維持可能住棟の修繕・改善工事や不良住宅の除却により、耐久性や居住性の向上と安全性の確保が図られる			
意図(どのような成果を期待しているか)	改善等により安全安心な居住環境を提供することができる			
事業実施主体	名寄市			
事業実施方法	直営	一部委託	全部委託	補助等 <input checked="" type="radio"/> 請負 その他()
事業実施期間	始期	H22年度	終期設定	有(終期年度) <input checked="" type="radio"/> 無
根拠法令・条例等	公営住宅法			

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H24	H25	H26	H27見込	目標年度 (年度)
				目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	1 当該年の改善事業をするための発注件数 実際に改善事業を実施した件数	件	目標	2	2	3	2	
			実績	2	2	3		
	2 除却住戸 除却が完了した住戸(全32戸)	戸	目標	0	0	8	4	
			実績	0	0	8		
成果指標	1 改善住棟数(累計) 改善が完了した住棟数(累計)	棟	目標	0	1	3	4	
			実績	0	1	3		
	2 除却住戸数(累計) 除却が完了した住戸数(累計)	%	目標	0	0	25	37	
			実績	0	0	25		

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H24決算	H25決算	H26決算	H27予算	平成26年度の事業費内訳
事業費	19,036	74,108	108,107	146,550	
国道支出金	8,514	28,479	54,649		ノースタウンなよろ団地(設計) 3,618
地方債					風舞団地(改善) 98,809
その他					西町団地(除却) 5,680
一般財源					計 108,107
人件費	7,351	7,292	7,292	0	
平均給与額	6,683	6,629	6,629	6,629	※社会資本整備総合交付金(地域住宅計画)で
担当職員数	1.10	1.10	1.10		各年度一括して交付されるため事業按分して
総事業費	26,387	81,400	115,399	146,550	算定した。
対前年比(%)	—	308	142	127	コストの算出方法
事業コスト	活動指標1	13,194	40,700	36,445	総事業費/活動指標
	活動指標2	0	0	758	
	活動指標3				

※H26及びH27年度平均給与額は仮の数値です

(3)事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	特に無し
改善点	指摘事項 有 () 無

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	a	公営住宅整備基準や住宅関連規定に基づいた仕様規定で改善を行っており、安定的に安心して暮らせる住宅を供給できている。
有効性 目的を達成するための方法として有効か？	a	低所得者の住宅困窮者の住生活を向上するため、老朽化や断熱性の乏しい公営住宅を改善して整備することは有効な手段である。
効率性 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	a	毎年の実施設計において手法やコストを意識し、華美なものとならないよう努めている。
公平性 受益者負担は適正か、受益者に偏りがなくないか？	a	受益者(入居者)の負担は住宅使用料として毎年の収入申告から適正な費用を徴収している。
達成度 活動指標、成果指標の達成度は？	a	住宅マスタープラン及び公営住宅等長寿命化計画に基づき事業を着手し、現在までに瑞生団地トイレ水洗化、ノースタウンなよろ団地1棟改善、風舞団地2棟改善、旧西町団地2棟除却を実施しており、計画どおりに改善事業を進めている。

5 1次評価

評価結果	理由	
A	既設公営住宅の改善は、居住環境の向上のみならず、ランニングコストの低減や維持保全としても建築物の延命化につながる有効な事業である。	
A:現状のまま継続 B:進め方を改善 C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	1次評価のとおり